学校番号	1015

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	標準古典Ｂ改訂版　（第一学習者）						
副教材等	要点プラス　体系古典文法（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・古典を学ぶことにより、広く日本、日本語への知識を深めよう。また、漢文に触れることで、漢字圏への興味、関心を深めよう。
・さまざまな時代の、さまざまな経験をした人々のものの見方、感じ方、考え方をとらえよう。
・現代に生きる私たちとも共通する、普遍的なことにも気づいていこう。

・ノートやプリントをきちんと仕上げ、知識の整理ができるようにしよう。
・自分の考えを他の人に伝えることができるようにしよう。
・提出物の期限を守り、定期考査には努力して臨むなど、自分で計画的に学習を進めよう。

２　学習の到達目標

・古典の文章を正確に理解することができる。現代文に置き換えることで国語力を高めることができる。
・現代では考えにくい状況にあっても、古典の登場人物の感情を読み取ることができる。そのことで他者の理解を深めることができる。
・自分で考えをまとめ、的確に他者に伝えることができる。
・日本や中国の、さまざまな時代の文化を理解することができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e：知識・理解
観点の趣旨	古典に対する関心を深め、その読解能力を高め、現代語にも応用できる国語力を身につけようとしている。			様々な文章を的確に読み取り、自分の考えを深めている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、プリント等） 定期考査			記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、プリント等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	知恵の働き――説話	・沙石集 児の飴食ひたること	○			◎	○	a:内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 d: 登場人物の行動を的確に読み取り、話のおもしろさを理解する。 e:時代背景を展開に即して的確にとらえる。	a、d、e: 行動の観察と確認 小テスト及び定期考査
		・今昔物語集 高陽親王のからくり人形	○			◎	○		
	宮中の生活――随筆	・枕草子 中納言参りたまひて 野分のまたの日こそ 雪のいと高う降りたるを	○			◎	○	a:内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 d: 正しく音読し、内容を的確に読み取る。 e:中古の宮廷文化を理解する。	a、d、e: 行動の観察と確認 小テスト及び定期考査
	理想の世界――物語	桃花源記	○			◎	○	a: 長い文章を読み、漢文の読解に慣れる。 d: 正しく読み、内容を的確に読み取る。 e:作品に表れる作者の社会観、自然観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。	a、d、e: 行動の観察と確認 小テスト及び定期考査
2学期	物語　歴史と人間――歴史	・大鏡 競べ弓 鶯宿梅	○			◎	○	a:内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 d: 正しく音読し、内容を的確に読み取る。 e:歴史的背景、古典と現代とのつながりを理解する。	a、d、e: 行動の観察と確認 小テスト及び定期考査
	家族を思う――物語	・雨月物語 浅茅が宿	○			◎	○	a:内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 d: 正しく音読し、内容を的確に読み取る。 e:歴史的背景、古典と現代とのつながりを理解する。	a、d、e: 行動の観察と確認 小テスト及び定期考査

	人生と社会――詩文	雑説	○			◎	○	a:繰り返し音読し、漢文独特の口調に習熟する。 d:作者の人生観についての認識を深める。 e:古典と現代とのつながりを理解する。	a、d、e: 行動の観察と確認 小テスト及び定期考査
3学期	家族を思う――物語	・大和物語 をばすて	○			◎	○	a:内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 d: 正しく音読し、内容を的確に読み取る。 e:歴史的背景、古典と現代とのつながりを理解する。	a、d、e: 行動の観察と確認 小テスト及び定期考査

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力

d:読む能力　　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。